文系ラボ　日本史のテーマ史

日本史 貨幣・金融史 確認問題集

全19問　／　解答・解説は後半　　名前 _____

記事「日本史 貨幣史まとめ｜和同開珎から金本位制・円の歩みまで」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部　一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

1 708年に発行された銭が手本とした、唐の銭貨は何か。

2 民間で勝手につくられた銭を何というか。

3 中世に、遠くへ銭を送るために使われた為替を何というか。

4 平安末期から鎌倉時代にかけて、高い利子でお金を貸した業者を何というか。

5 室町時代に日明貿易で大量に輸入され、東国では基準の銭とされた明銭は何か。

6 江戸幕府で金貨の鋳造を担った機関は何か。

7 江戸時代、金・銀・銭の交換を引き受け、為替・預金・貸付けも行った商人を何というか。

8 江戸時代、諸藩が発行し、領内だけで通用した紙幣を何というか。

9 元禄の改鋳で幕府が得た、改鋳による差額の収入を何というか。

10 1868年に明治政府が発行した、最初の政府紙幣は何か。

第2部　正誤問題

次の文ア〜エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

11 古代から中世の貨幣について。

ア　富本銭は、和同開珎より前の7世紀後半につくられた。

イ　蓄銭叙位令は、銭をたくわえて納めた者に位を与える法令である。

ウ　乾元大宝の発行後も、朝廷は平安時代を通じて新しい銭をつくり続けた。

エ　鎌倉時代には、年貢を銭で納める代銭納が広がった。

12 江戸時代の貨幣について。

ア　金貨は、両・分・朱の単位を用いる計数貨幣であった。

イ　丁銀や豆板銀は、重さを量って使う秤量貨幣であった。

ウ　寛永通宝は、1636年に鋳造が始まった。

エ　南鐐二朱銀は、重さを量って使う秤量貨幣であった。

13 明治時代の貨幣・銀行制度について。

ア　1871年の新貨条例で、円・銭・厘の十進法が採用された。

イ　国立銀行は、国が直接経営する銀行であった。

ウ　1882年に、中央銀行として日本銀行が設立された。

エ　1897年の貨幣法で、金本位制が確立した。

14 昭和戦前の金融について。

ア　1927年の金融恐慌では、3週間のモラトリアムが出された。

イ　1930年の金解禁は、浜口雄幸内閣の井上準之助蔵相が行った。

ウ　金解禁は、世界恐慌と重なって昭和恐慌を深刻にした。

エ　1931年の金輸出再禁止は、井上準之助蔵相が行った。

第3部　年代の並べ替え

次のア〜エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 古代から近世初めの貨幣を年代順に並べなさい。

ア　寛永通宝の鋳造が始まった。

イ　和同開珎が発行された。

ウ　室町幕府が撰銭令を出した。

エ　乾元大宝が発行された。

16 江戸時代の改鋳と新しい貨幣を年代順に並べなさい。

ア　南鐐二朱銀が発行された。
イ　正徳の改鋳が行われた。
ウ　万延の改鋳が行われた。
エ　元禄の改鋳が行われた。

17 近代の通貨制度に関するできごとを年代順に並べなさい。

ア　貨幣法が定められた。
イ　金輸出が禁止された。
ウ　日本銀行が銀貨と交換できる銀行券を発行した。
エ　国立銀行条例が定められた。

第4部　論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 江戸時代の元禄の改鋳と正徳の改鋳について、それぞれの内容と物価への影響を120字程度で説明しなさい。

19 明治政府が不換紙幣を整理し、金本位制を確立するまでの過程を150字程度で説明しなさい。

日本史 貨幣・金融史 確認問題集　解答・解説

第1部　一問一答

1　開元通宝

和同開珎は、唐の開元通宝にならってつくられました。銀銭と銅銭があり、銀銭は翌709年に使用が停止されました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／古代

2　私鋳銭

古代には私鋳銭が出回って銭の価値が下がり、政府は新しい銭の発行をくり返しました。中世にも国内外でつくられた私鋳銭が撰銭の原因になりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／古代、室町・戦国時代

3　替銭

銭の為替を替銭、米の為替を替米といい、送金に使う手形は割符と呼ばれました。銭は重く、運ぶのに不便だったことが背景にあります。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／平安末〜鎌倉時代

4　借上

借金を返せずに所領を失う御家人も出ました。室町時代には、土倉が金融業者の中心になります。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／平安末〜鎌倉時代

5　永楽通宝

明銭には永楽通宝・洪武通宝・宣徳通宝などがあります。江戸時代に寛永通宝が行き渡ると、古い銭の使用は禁じられました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／室町・戦国時代

6　金座

金座では後藤庄三郎の家が長官の地位を受け継ぎました。銀貨は銀座、銭貨は銭座でつくられました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

7　両替商

中世の替銭屋・割符屋の流れをくむ商人で、とくに大坂で本両替が発達しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

8　藩札

最初の藩札は1661年の福井藩のものです。財政の苦しい藩が乱発して価値が下がる例も少なくありませんでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

9 **出目**

金銀の割合を下げた貨幣を大量に発行し、その差額を収入にしました。その一方で、貨幣の値打ちが下がって物価が上がりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代中後期

10 **太政官札**

金貨や銀貨と交換できない不換紙幣で、政府の信用も弱かったため、額面どおりには通用しにくいものでした。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治時代

第2部　正誤問題

11 **ウ**

958年の乾元大宝を最後に、国家による銭の発行は近世の初めまで途絶えました。中世には宋銭・明銭などの輸入銭が使われました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／古代、平安末〜鎌倉時代

12 **エ**

南鐐二朱銀は、銀貨でありながら枚数で通用する計数貨幣で、8枚で小判1両と交換できると定められました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期、江戸時代中後期

13 **イ**

国立銀行は、国立銀行条例にもとづいてつくられた民間の銀行です。「国立」という名前にまどわされないようにしましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治時代、入試で狙われるポイント

14 **エ**

金輸出再禁止を行ったのは、犬養毅内閣の高橋是清蔵相です。井上準之助の金解禁と組み合わせを入れかえるひっかけに注意しましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／大正〜昭和戦前、比べて覚える

第3部　年代の並べ替え

15 **イ→エ→ウ→ア**

和同開珎（708年）→乾元大宝（958年）→室町幕府の撰銭令（1500年）→寛永通宝（1636年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 **エ→イ→ア→ウ**

元禄の改鋳（1695年）→正徳の改鋳（1714年）→南鐐二朱銀（1772年）→万延の改鋳（1860年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

17 **エ→ウ→ア→イ**

国立銀行条例（1872年）→日本銀行券の発行（1885年）→貨幣法（1897年）→金輸出禁止（1917年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

第4部　論述問題

18 **解答例：元禄の改鋳は、荻原重秀の提案で金銀の割合を下げた貨幣を大量に発行し、出目を幕府の収入とした。通貨はふえたが物価が上がった。正徳の改鋳では、新井白石が金銀の割合を慶長金銀の水準にもどしたが、通貨が減って物価が下がり、景気が沈んだ。**

採点のポイント：①元禄は金銀の割合を下げ出目を得たこと、②その結果物価が上がったこと、③正徳は割合を慶長金銀の水準にもどしたこと、④通貨が減り物価が下がったこと、の4点が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代中後期、比べて覚える

19 **解答例：西南戦争の戦費のため不換紙幣が増発され、激しいインフレが起きた。1881年に大蔵卿となった松方正義は、緊縮財政の剰余金で不換紙幣を整理して正貨をたくわえ、1882年に日本銀行を設立した。1885年からは銀と交換できる日本銀行券が発行され、銀本位制が確立した。さらに1897年の貨幣法で、日清戦争の賠償金を準備金として金本位制を確立した。**

採点のポイント：①西南戦争による不換紙幣の増発とインフレ、②松方正義の紙幣整理、③日本銀行の設立と銀兌換券による銀本位制、④貨幣法と日清戦争の賠償金による金本位制、の4点が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治時代

記事：日本史 貨幣史まとめ｜和同開珎から金本位制・円の歩みまで　https://lawcityblog.com/nihonshi-theme-kahei/
問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。